

入間の織物工場と周辺の文化財を訪ねる

2017-09-23 記 小川 雅愛

■実施日 平成 29 年（2017 年）9 月 21 日（木） ■参加者 19 名

◆ 所沢織物の伝統を継ぐ産地はどこに？

かつて隆盛であった地場産業所沢織物の生産地を訪ね、その歴史をいささかでも辿りたい、そんな思いで入間市まで足をのばし、今回は歴史と伝統のある「(有)細芳織物工場」を見学させていただく機会を得ました。そこで工場見学とともに近辺で著名な文化財建造物をも見学の活動に加えることにしました。

今回、担当した 3 名は市民大学第 20 期の 2 年次所沢市史でグループワーク「所沢を支えた地場産業の歴史」発表に関与したメンバーで、その当時のことを思い出しながら気心のしれた同士として、発表会のミニ版のような調査や下調べで準備してみました。それは文化財見学や工場見学の場で、担当者が準備した下書きや内容調査をもとに参加した皆さんに簡単にご案内することを試みることでした。何分にも専門家ではないので不十分ではありましたが、少しは活動の盛り上げになったのではないかと考えています。

9 時 40 分までに入間市駅に集合し、駅～織物工場・文化財～駅をぐるり周回するコースを設定しました。見学順に活動報告いたします

◆ 著名な文化財を見る（1）

★旧 石川組製糸西洋館（河原町） 国指定の文化財建造物を見学

大正から昭和の初めにかけて全国有数な製糸会社であった石川組製糸、一時は郡是、片倉工業（富岡製糸工場を操業していた）と並ぶ生産額でした。最盛時はニューヨーク五番街に営業所をもち活動、その取引先の外国人賓客を迎えるため、大正 10 年頃迎賓館として建設された華麗な建造物でした。現在石川組はありませんが、往時をしのぶシンボリックな建物として見学の価値は十分あります。戦時中は陸軍航空士官学校（現入間基地付近）歴代校長の使用、戦後の米軍将校 3 家族の住宅への改変など紆余曲折を経て、昭和 33 年に石川家に返還されました。今日、文化財指定されています。現在、修復中のため足場が組まれている箇所もあり、立ち入りできず、良い写真が撮れなくて残念です。来春には日を決めて内部も一般公開される予定、期待しましょう。



★彰義隊遭難者碑付地蔵(黒須町) 真言宗蓮花院の境内にある市指定文化財見学

慶応4年(1868)5月の上野戦争勃発の前、3月に彰義隊一部隊士13名が扇町屋に投宿し、村に法外な要求を出す。その2年前におこった「武州世直し一揆」の余波がさめやらぬ時期であったので、村人には偽隊士と間違われて、いろいろ悶着があった末、9名が当地で殺害されました。犠牲となった隊士を供養するために後に村人によって建てられた地蔵です。

一般の墓石に交じってひっそりと目立たない地蔵で、案内の看板がなければ見落としてしまいます。彰義隊から分かれた振武軍もここ扇町屋を通して、飯能戦争へ突入したことを思い起こさせられるひとときでもありました。



◆古い街並みにたたずむ織物工場を紹介します。

★(有)細芳織物工場(春日町) 代表取締役 細田和男社長に直接ご案内いただきました。

(所沢織物と工場概要)

工場内に入る前に担当者から簡単に所沢織物の復習を兼ねた解説を受けました。東側の道路から見て5つの鋸屋根が織物工場であることを印象づけています。こうした鋸屋根を持つ工場は数少なく、歴史的な建物として、これを目当てに訪れるレポーターもいます。

北向きに配置され、これは太陽の光線によって明かりが左右されないことや織物のモーターなど、内部の機械がとがった部分に配置するのに都合が良いからです。明かり取りについては蛍光灯により昔ほど重視されないとのことでした。

当社は細田政治氏が明治年代に始められた「細政織物工場」がルーツとのことで、当時は所沢織物同業組合に属していた会社でした。現代の会社は社長の先代の方が「(有)細芳織物工場」として昭和19年に創業され、73年の長い歴史をえています。

(工場内で)

内に入ると鋸屋根の効果で想像以上の明るい職場でした。現在はマフラーを中心に作っているそうで、生地に実際に触ったりし、肌触りのよい織物になっていました。

紡錘担当、織機数台の見張り、製品の仕上り点検など数名の方がリズムカルな織機の音のなかで忙しく働いておられる姿を見ました。機械を止め、飛び杼の糸を瞬時に取り替える早業を目にし、かなりの熟練が必要と感じました。織物は機械にかける前の準備段階が大変で、フル操業していないとのことでした。織機では繊細な織物を生み出す古くからの豊田佐吉のY式織機が稼働していました。

数台で右から左へ書かれた豊田式の文字が確認できました。ほかではスズキ、ニッサンなど自動車メーカーの機械が稼働しているとのこと。

パリコレなどの服飾の生地としてオーダーがあるとのことですが、細芳のブランド名で商品として市場に出すことはないとの説明でした。

(工場の外でのご説明・質問ほか)

所沢織物では向山小平次氏が有名ですが、元加治・入間・仏子方面は平岡徳次郎氏がリーダーで当時は50軒に及ぶ織物工場があったそうです。現在は(有)細芳織物工場が入間地域で唯一の工場になりました。当社では鋸屋根と豊田織機が特色と話されましたが、古い機械でも修理してオリジナルリティのある高品質の織物を生み出して頑張っておられることに感銘を受けました。

工場見学者にはコースターをプレゼントしていただきました。それとは別に女性の参加者にはカラフルな織物コースターは大変人気があり、その場で多色のものを安く売っていただきました。鋸屋根をバックに社長を囲んで訪問記念写真を撮影し、印象に残る工場見学を終えました。



左端、代表取締役 細田和夫社長

◆ 著名な文化財を見る(2)

★旧 黒須銀行(黒須町) 市指定文化財建造物

黒須町の道路に面した土蔵造り二階建て、寄棟瓦葺の古い建物があります。明治42年築で土蔵の漆喰や正面の堅牢な扉、当時貴重なガラス窓、瓦に刻まれた丸印の中の信の文字にいかにも古い銀行らしさを感じます。周辺には当時この銀行を唱道した繁田満義氏のご親戚なのか繁田の姓の店舗が2、3みられます。

この銀行は道徳を基本とする経営をめざし趣旨を賛美する渋沢栄一氏から道徳銀行の称号を与えられ、創立15周年には渋沢栄一の書による「道徳銀行」扁額を寄贈されています。この額は現在さいたま市の埼玉りそな銀行の応接間に掲げられています。見学後は入間市駅に12時過ぎに戻り、中締め解散としましたが、殆どの人は次へ

★彰義隊遭難者の碑(豊岡町) 市指定文化財

当地で殺害された彰義隊士を記録した碑が豊岡高校のそばの通りに面した角地に立っています。碑の石柱の文字はほとんど読めず、解説の看板と高札でそれと知ることができます。大正10年に元彰義隊の頭取(隊長)本多晋(すすむ)によって建てられと記してあります。先に訪れた蓮花院にある村人によってつくられた地蔵は元々ここにありましたが、高校の建築で移転しています。ここで記念写真を一枚。

12時半近くになり、駅からは遠ざかるものの入間市役所内の食堂まで十数名で押しかけました。幸い、席はゆったりとれ、比較的安くておいしいお昼を頂きました。

食事後は仏子駅まで移動して板碑見物、高倉寺の観音堂見学の選択肢もありましたがダウン気味でやめました。元気のいい人はついでにジョンソントウン見学をしたようです。

所沢市史とは必ずしも直接は結びつかない企画であったかもしれませんが、古い物や文化財を大切に作る心は同じであり、学ぶべき点は多かったのではないかと思います。



旧 黒須銀行



左端「彰義隊遭難者の碑」建立場所

■配布資料・「石川家の西洋館（郷土文献 石川家の人々より抜粋して作成）」

- ・「入間市の文化財資料 西洋館・幕末の動乱（彰義隊）」
- ・「明治の銀行建築（旧黒須銀行）」
- ・新聞切り抜きコピー「東京新聞・・・旧石川組製糸西洋館の進駐軍改変」
 - 〃 「日本経済新聞 文化欄・・・鋸屋根連なる工場の記憶」

担当 小川雅愛 佐野弘太郎 中村宣夫